国際フィルム・アーカイヴ連盟＝FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

Fukuoka City Public Library Movie Hall
Ciné-là
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

シネラ・ニュース No.211

November.2014

11

特別企画

林芙美子原作映画特集

林芙美子原作で映画化された作品の特集。

©1961東宝
女家族

©1962東宝
放浪記

©日活
うず潮

特別企画

福岡ユネスコ・アジア文化講演会

林権澤監督講演会

韓国映画の至宝、林権澤監督が次代の映画作家に伝えたい文化を語る。

春香伝

特別企画

林芙美子 原作映画特集

林芙美子原作で
映画化された作品の特集。

会　期：11月1日（土）～23日（日）
※休館日・休映日除く

観覧料：600円（大人）
500円（大学生・高校生）
400円（中学生・小学生）

※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円（手帳の呈示が必要です。）
※「わの会」会員の方は300円（会員証の呈示が必要です。）

林芙美子原作映画特集／講演会
「映画は原作を超えている」

11月2日（日）14:00～14:50
※開場は開演の30分前。
※講演は有料で15時からの「浮雲」とセット料金です。

講師：矢野寛治（書評・映画ライター）

1948年大分県中津市生まれ。成蹊大学卒業後博報堂入社。コピーライターとして勤務。2008年に退社し、現在コピー＆文案オフィス「矢野寛々房」主催。書評、映画評、エッセイを執筆すると共に、中洲次郎の名でコラム、エッセイを連載している。RKB「今日感テレビ」コメンテーター。主な著書に「ふつうのコピーライター」（共著 宣伝会議刊）「なりきり映画考」（書肆侃侃房刊）「団塊少年」（筆名中洲次郎）「伊藤野枝と代準介」（弦書房刊）などがある。

7【金】11:00　9【日】14:00
15【土】11:00　21【金】14:00

晩菊

©1954東宝

監督：成瀬巳喜男
出演：杉村春子
上原　謙

おすすめ！

元芸者の倉橋きんは、金貸しや不動産の売買をしていた。きんはお金が第一で、近所に住む昔の芸者仲間にも金を貸して利子を取っていた。ある日昔きんと恋愛関係にあった田部から会いたいという手紙が来て、きんは昔を思い出す。やがて田部がやって来るが、世間話をするうちに田部がお金を借りに来たことを悟る。きんは幻滅し、冷ややかな態度をとる。

林芙美子の3本の短編小説「晩菊」「水仙」「白鷺」を合わせて映画化した作品。きんも含めた元芸者仲間たちはそれぞれの小説の登場人物であり、40を過ぎた女達の群像劇となっている。人情もろい他の女性と違いきんは「世の中は金がすべて」を実践している。微妙な会話と心理描写が中心の作品であり、地味な印象はぬぐえないが、女性映画の名手と言われた成瀬監督の冷徹な視線がさえる傑作である。

1954年／35ミリ／モノクロ／102分／東宝

1【土】11:00　8【土】14:00
20【木】11:00

めし

監督：成瀬巳喜男
出演：上原　謙
原　節子

大阪の証券会社に勤める初之輔は妻の三千代と長屋で二人暮らしをしていた。5年前に恋愛結婚した二人だが、まだ子供はなく、日々の雑事に追われるうちに二人の会話は少なくなっていた。林芙美子の同名小説の映画化だが、原作は林芙美子の急死により未完となった。したがって映画のラストは脚本家の創作。日常生活の的確な描写により本作は成瀬監督の戦後最初の傑作として高く評価されている。

1951年／35ミリ／モノクロ／97分／東宝

1【土】14:00　6【木】11:00
12【水】14:00　19【水】11:00

稲妻

監督：成瀬巳喜男
出演：高峰秀子
浦辺粂子

バスガイドの清子は、母親おせいと姉2人、兄1人の4人家族だが、兄弟の父親は全部違っていた。長女の縫子と次女の光子は結婚していたが、長男嘉助は無職だった。ある日縫子が清子に綱吉との縁談を持ってくるが、縫子は縁談を利用して金儲けをしようとしていた。林芙美子の同名小説の映画化。母親おせいは芙美子の実母がモデルだが、映画化に際して戦前から戦後に舞台が変わっている。高峰秀子が清子を好演する、成瀬監督の傑作の一本。

1952年／35ミリ／モノクロ／87分／大映

9【日】11:00　15【土】14:00
21【金】11:00

妻

©1953東宝

監督：成瀬巳喜男
出演：上原　謙
高峰三枝子

会社員中川と妻の美種子は結婚後10年過ぎていたが、子供はできず最近は倦怠期を迎えていた。ある日中川は会社の同僚で未亡人の房子に誘われデートをする。房子は会社を辞め、大阪に帰ってしまうが、中川は房子に惹かれはじめていた。原作は林芙美子の「茶色の目」。夫役が上原謙であり、「めし」との共通点は多い。頼りない夫と美人で高慢な妻の最後は、映画ではあいまいだが原作では離婚する。

1953年／35ミリ／モノクロ／96分／東宝

2【日】15:00　6【木】14:00
14【金】14:00　22【土】14:00

浮雲

監督：成瀬巳喜男
出演：高峰秀子
森　雅之

幸田ゆき子は戦争中インドシナで富岡に出会い、愛し合う。日本に帰ったら妻と別れるという富岡の言葉を信じたゆき子だが、富岡の態度ははっきりしない。やむなく米兵の世話になるゆき子だが、その後も富岡とは交際が続く。主人公の二人は、結婚する事もなく別れもしない。原作は林芙美子最晩年の傑作といわれているが、映画も成瀬監督の最高傑作と評価は高い。主演の高峰秀子、森雅之共に忘れがたい名演の日本映画の最高の名作の一本である。

1955年／35ミリ／モノクロ／123分／東宝

3【月・祝】11:00 **13**【木】11:00
23【日・祝】11:00

下 町
ダウンタウン

©1957東宝

監督：千葉泰樹
出演：山田五十鈴
　　三船敏郎

終戦から4年目の春。矢沢りよは行商をしながら夫が戦地から帰るのを待っていた。ある日りよは川沿いの小屋に住む復員兵の鶴石と知り合う。鶴石とりよは親しくなり、りよは子供をつれて遊びにいくようになる。そして二人は関係を持ってしまう。林芙美子の同名小説の映画化。戦争の傷を引きずりながら復興に向かう人々を愛情を込めて描いた秀作。当時の浅草の風景と物語が見事にマッチしている。

1957年／35ミリ／モノクロ／58分／東宝

2【日】11:00 **13**【木】14:00
19【水】14:00 **23**【日・祝】14:00

放 浪 記

©1962東宝

監督：成瀬巳喜男
出演：高峰秀子
　　田中絹代

昭和初期。林ふみ子は母と行商をしながら暮らしていたが、やがて東京に出てカフェの女給となる。ふみ子は詩人や作家たちと知り合い、同棲をしながら自分も詩を書き始める。やがてふみ子は作家としてデビューする。林芙美子の自伝的色彩が濃い同名小説の映画化作品。映画の製作当時すでに森光子の舞台がヒットしており、本作は舞台の脚本を元にしている。高峰秀子が森光子と遜色ない演技をみせている。東宝創立30周年記念作品の一本。

1962年／35ミリ／モノクロ／123分／宝塚映画

3【月・祝】14:00 **14**【金】11:00
16【日】14:00

女 家 族

©1961東宝

監督：久松静児
出演：三益愛子
　　新珠三千代

大阪の滝沢家。母親の雪江の他に、長女の時子が未亡人となって戻っており、次女のるい子と三女の秀子は未婚だった。ある日雪江の知人からるい子に縁談が持ち込まれる。実はるい子は妻子ある男性と付き合っており、見合いをすっぽかす。ところが見合い相手の男性は秀子を気に入ってしまう。林芙美子の同名小説の映画化。家庭的な時子、奔放なるい子、明るく現実的な秀子と三人姉妹の恋愛模様が小気味よく展開する女性映画※フィルム状態が良くありません。ご了承ください。

1961年／35ミリ／カラー／94分／宝塚映画

8【土】11:00 **20**【木】14:00
22【土】11:00

う ず 潮

©日活

監督：斎藤武市
出演：吉永小百合
　　浜田光夫

大正11年。林フミ子は高等学校の生徒で、家庭は貧しいが、文学好きの明るい女性だった。ある時行商に出た父親が戻らず、フミ子は学校の月謝や修学旅行の費用が払えなくなる。フミ子は工場の臨時工となり自分で学費を工面する。連続テレビ小説林芙美子作品集の「うず潮」を映画化した作品。貧しく暗いイメージではなく、日活純愛路線の二人の主演らしく、明るいタッチの青春映画である。

1964年／35ミリ／カラー／96分／日活

7【金】14:00 **12**【水】11:00
16【日】11:00

稲 妻

©1967松竹

監督：大庭秀雄
出演：倍賞千恵子
　　浜木綿子

東京下町の「柴田商店」。三女の清子は電話交換の仕事をしており、店は次女の光子と夫の呂平が運営していた。長男の嘉助は無職だった。ある日長女の縫子が清子に、パン屋の綱吉との縁談を持ってくる。縫子は結婚がまとまれば綱吉が経営する旅館を任される約束をしていた。「稲妻」二度目の映画化作品。高峰秀子が演じた清子を本作では倍賞千恵子が演じ、舞台もビルが立ち並ぶ東京である。文芸映画に定評がある大庭監督による秀作。

1967年／35ミリ／カラー／85分／松竹

特別企画

福岡ユネスコ・アジア文化講演会
イム・グォンテク
林権澤監督 講演会

韓国映画の至宝、林権澤監督が
次代の映画作家に伝えたい文化を語る。

主催：一般財団法人福岡ユネスコ協会／福岡市総合図書館
　　映像ホール・シネラ実行委員会／福岡市教育委員会

日　時：11月24日（月・振替休日）
　　13:30～ 講演／林権澤（映画監督）
　　14:20～ 対談／林権澤×石坂健治（日本映画大学教授）
　　15:20～「春香伝」上映

観覧料：1,200円（一般）／500円（学生・留学生）／1,000円（一般予約）
※定員制。開場は開演の30分前。
※障がい者、高齢者、「わの会」割引なし。
※観覧料は講演・対談と映画上映のセット料金です。途中入場でも観覧料は変わりません。
※学生・留学生の方は身分証の提示が必要です。
※予約は福岡ユネスコ協会にて、FAX：092-733-1291又はEメール：fuunesco2014@gmail.comで受け付けます。「林権澤監督講演会希望」と明記の上、住所・氏名・連絡先を添えてお申し込み下さい。

林権澤（映画監督）

1936年韓国、全羅南道・長城生まれ。62年に「豆満江よさらば」で監督デビュー。70年代前半まではメロドラマ、アクションなどあらゆるジャンルの商業映画を監督していたが、「雑草」（73年）をきっかけに作家意識に目覚める。以後伝統的な韓国文化や歴史をテーマに映画を作る。「族譜」（78年）「曼陀羅」（81年）「シバジ」（86年）等で芸術映画の監督として高い評価を得る。「風の丘を越えて～西便制」（93年）では興行的にも大成功をおさめ、「酔画仙」（02年）では韓国映画初のカンヌ国際映画祭監督賞を受賞。97年には福岡アジア文化賞芸術文化賞受賞。韓国映画を代表する国民的映画監督である。2008年から「林権澤映画芸術大学」教授。

石坂健治（日本映画大学教授）

1960年東京生まれ。早稲田大学大学院で映画学を専攻。国際交流基金を経て、2007年から東京国際映画祭アジア部門プログラミングディレクターを務める。2011年から日本映画大学教授。著書に「ドキュメンタリーの海へ―記録映画作家・土本典昭との対話」「アジア映画の森　新世紀の映画地図」などがある。

【上映作品】

春香伝 Chunhyang

監督：林権澤
出演：チョ・スンウ　イ・ヒョジョン

日本語・英語字幕付き

「春香伝」は李朝時代に書かれた作者不詳の小説。韓国では純愛ドラマの古典として有名で、これまで10回以上映画化されている。それぞれ時代を代表する人気俳優が演じてきたが、林監督は新人俳優を起用し、パンソリによって「春香伝」を語るという斬新な演出を施している。映画全編がパンソリのリズムと語りで貫かれ、ミュージカル映画のような趣をもつ林権澤監督の傑作。

2000年／35ミリ／カラー／121分／韓国

11月 上映スケジュール

林芙美子原作映画特集

1 土	11:00 めし	14:00 稲妻(1952)	
2 日	11:00 放浪記	14:00 矢野寛治講演会	15:00 浮雲
3 月・祝	11:00 下町 ダウンタウン	14:00 女家族	
4 火	休館日		
5 水	休映日		
6 木	11:00 稲妻(1952)	14:00 浮雲	
7 金	11:00 晩菊	14:00 稲妻(1967)	
8 土	11:00 うず潮	14:00 めし	
9 日	11:00 妻	14:00 晩菊	
10 月	休館日		
11 火	休映日		
12 水	11:00 稲妻(1967)	14:00 稲妻(1952)	
13 木	11:00 下町 ダウンタウン	14:00 放浪記	
14 金	11:00 女家族	14:00 浮雲	
15 土	11:00 晩菊	14:00 妻	
16 日	11:00 稲妻(1967)	14:00 女家族	
17 月	休館日		
18 火	休映日		
19 水	11:00 稲妻(1952)	14:00 放浪記	
20 木	11:00 めし	14:00 うず潮	
21 金	11:00 妻	14:00 晩菊	
22 土	11:00 うず潮	14:00 浮雲	
23 日・祝	11:00 下町 ダウンタウン	14:00 放浪記	
24 月・休	林権澤監督講演会		
25 火	休館日		
26 水 ▶ 29 土	休映日		
30 日	自主上映／福岡映画サークル協議会例会		

林芙美子／略歴

1903年生まれ。出生地は本人によれば山口県下関市であるが、北九州市の門司という説もある。出生届は叔父の家がある鹿児島市で「林フミ子」として出されており、1903年12月31日生となっている。出生当時母キクと実父は下関で暮らしていたが、その後養父とともに筑豊に移り住むなど、林フミ子は長崎、佐世保、下関と小学校を転校している。1916年尾道市に落ち着き、尾道市立高等女学校に進学。この頃から文才を発揮しており、地方新聞に短歌や詩を発表している。22年女学校卒業後上京。女給などをしながら文化人との交流が始まり、筆名に林芙美子を使うようになる。26年画学生の手塚緑敏と結婚。28年女人芸術誌に「放浪記」を連載開始。29年には詩集「蒼馬を見たり」を自費出版する。「放浪記」「続放浪記」が評判となり、林芙美子は流行作家となっていく。活発な文筆活動の傍ら、31年にはパリへ一人旅。37年南京攻略戦には毎日新聞の特派員として現地に赴く。42年には陸軍報道班員としてシンガポール、ジャワ、ボルネオに赴くなど、精力的に活動した。戦後も人気作家の一人であったが、執筆依頼を断らず数多くの作品を発表、「晩菊」「浮雲」と言った名作を残す。また講演や取材の旅も惜しまなかった。51年心臓麻痺で急死。

林芙美子の原作は数多くが映画化されているが、中でも「放浪記」が3度、「稲妻」が2度、「うず潮」が2度映画化されている。特に女性映画の名手だった成瀬巳喜男監督との相性は抜群で、「浮雲」は日本映画最高の名作の一本とされるほか、「めし」「稲妻」「晩菊」などの傑作がある。

自主上映のお知らせ

11月30日(日) 福岡映画サークル協議会第6回例会

上映作品：「グオさんの仮装大賞」 ①11:00～ ②14:00～

料　　金：一般 当日 1,400円／一般 前売り 1,200円
　　シニア 1,000円／中・高生 800円

主　　催：映画サークル協議会　TEL.092-781-2817

※詳細については、直接主催者にお尋ね下さい。

交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄

西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分

◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については、西鉄お客様センター(電話 0570-00-1010)に直接お問い合わせください。

第347回プロムナードコンサート

◆◆◆月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日　時：2014年11月27日(木)12:00～13:00　※入場無料
場　所：西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)
曲　目：ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調 Op.131 他
演奏者：福岡ハイドン弦楽四重奏団
主　催：西日本シティ銀行／公益財団法人福岡文化財団(TEL 092-473-6777)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)：092(852)0600
Fax：092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ
うえぶシネラ http://www.cinela.com

発行：映像ホール・シネラ実行委員会 デザインワークス／VOW OFFICE Inc.
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。